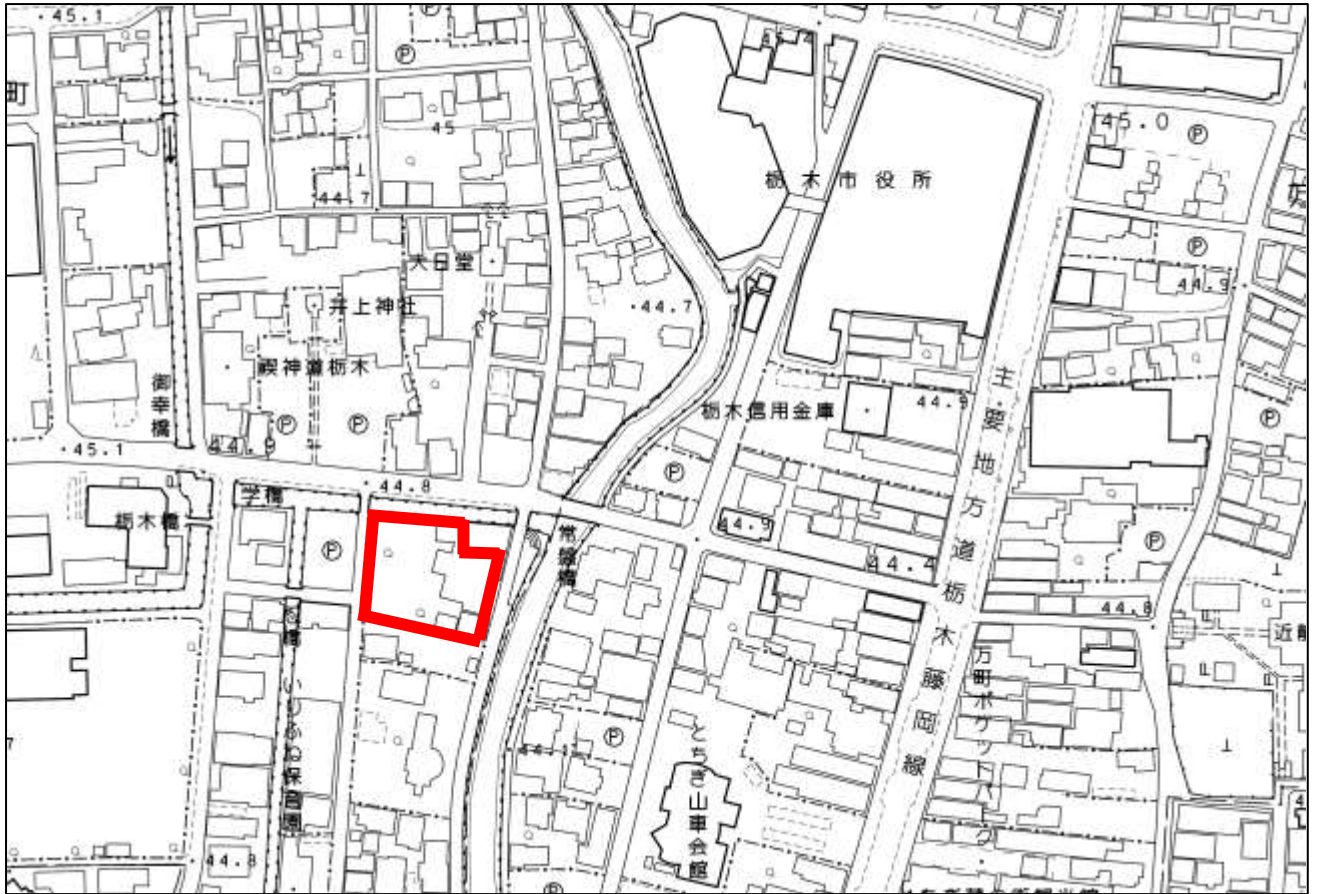


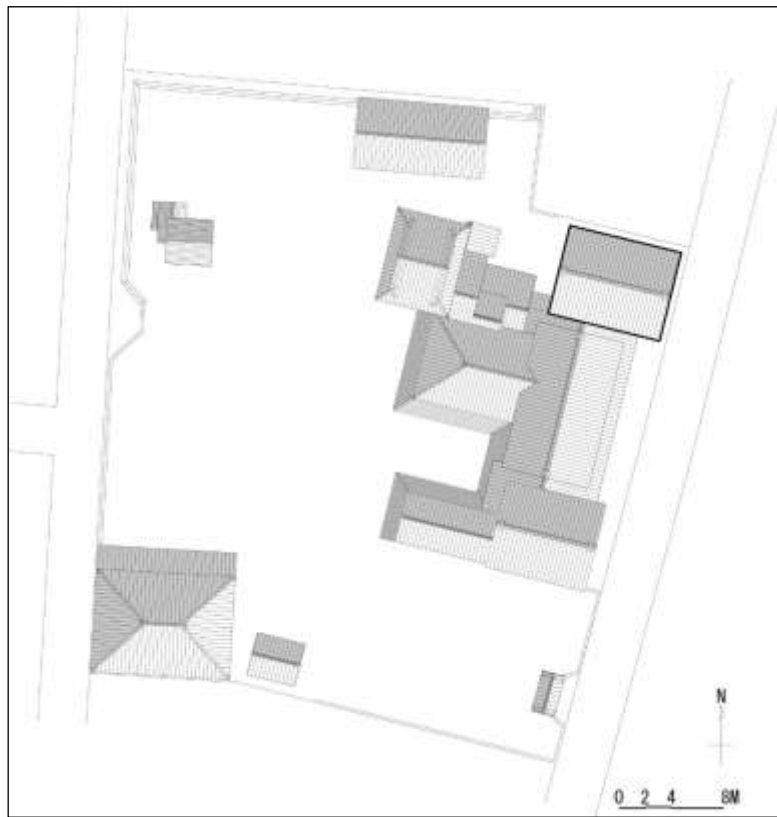
歴史的風致形成建造物 指定台帳

|                     |  |       |             |
|---------------------|--|-------|-------------|
| 指定番号                | 2  | 名称    | 横山郷土館麻蔵     |
| 指定年月日               | 令和2年3月11日  | 所在地   | 栃木市入舟町20番地2 |
| 所有者氏名               | 栃木市長 大川秀子  | 所有者住所 | 栃木市万町9番25号  |
| 建築年代<br>(根拠)        | 明治42年(1909)建築<br>(墨書)  | 規模・構造 | 石造 瓦葺 2階建   |
| 特徴等                 | <p>巴波川沿いには、現在でもいくつかの土蔵や石蔵が残り、商業都市として繁栄した当時の面影を偲ばせている。その中でひとときわ堂々とした外観を川面に映しているのが、麻問屋の歴史を紹介する「横山郷土館」である。中央に木造平屋の店舗があり、その両側に隣接して、鹿沼産の深岩石を積んだ石蔵が建つ。向かって左側の文庫蔵が明治43年(1910)、右側の麻蔵が明治42年(1909)の上棟であることが、棟木の墨書により確認でき、どちらにも「横山定助建之」とある。横山定助は、麻糸商や真縄製造を営むかたわら、明治33年(1900)入舟町に横山商事株式会社(金融業)を設立、明治41年(1908)東京市神田区にあった株式会社中橋銀行を買収、入舟町に移転改称のうえ株式会社栃木共立銀行とし、代表者に就任した。栃木でも有数の豪商と知られた人物であり、当初は大通り沿いに店舗を構えていたが、明治後期になって現在地に移った。中央の木造店舗は、左半分が銀行の店舗として、右半分が麻問屋として造られている。</p> <p>このほか敷地内には、店舗に続く木造2階建の住居部分や、大正7年(1918)建築の洋館(離れ)がある。いずれの建物も平成10年(1998)、登録有形文化財に登録されている。財団法人横山郷土館として一般公開されるようになったのは、昭和54年(1979)6月からで、平成27年(2015)に栃木市へと引き継がれた。</p> |       |             |
| 形成する歴史的風致<br>(指定理由) | <p>商家町栃木にみる歴史的風致(物資の集散による問屋業の発展にみる歴史的風致)かつての麻問屋といった問屋業を営んでいた頃の建造物で、物資の集散による問屋業の発展を物語っている。</p>  |       |             |
| 備考                  | 登録有形文化財(平成10年(1998)9月2日)   |       |             |





横山郷土館 案内図



配置図